



日本アスレティックトレーニング学会

News Letter 第7号

発行:2020年10月15日

No.7 掲載内容

1. 新理事挨拶	2
2. 新委員長挨拶	12
3. 第9回日本アスレティックトレーニング学会学術大会のお知らせ	15
4. アスレティックトレーニング学会員の活動報告	16
編集後記	18

1. 新理事挨拶

任期満了にともなう役員改選が行われ、7月24日 総会にて新執行部が承認されました。
そこで、今回は代表理事をはじめとし、新理事の挨拶を掲載いたします。

代表理事

広瀬統一(早稲田大学)



会員の皆様におかれましては、それぞれの活動現場における COVID-19 の感染拡大防止、および長期のスポーツ活動自粛からの安全なスポーツ活動再開にむけて、多忙な日々を送っていらっしゃるのと拝察いたします。このような未曾有の事態において、これまで以上にスポーツ活動を安全に行えるように支援するための知見、そしてその知見をスポーツ実践者に届ける人材が、多くのスポーツ現場で求められています。代表理事として、会員の皆様と双方向の情報交換をこれまで以上に図りながら、科学的根拠に基づいた「スポーツ現場における安全と安心環境づくり」のための学術活動を本学会が活性化できるように、尽力してまいります。また、会員の皆様をはじめ、スポーツ現場の安全と安心を支援する方々、およびスポーツをする人すべてにその知見が届けられるように、これまで以上にアウトリーチ活動に努めていきたいと考えております。

(担当の業務・活動の紹介)

代表理事としての役割に加え、本邦におけるアスレティックトレーニング学の認知度向上のための各種活動を企画、立案する「将来構想委員会」の委員長として、本邦におけるアスレティックトレーニング学の普及・発展に努めてまいります。本委員会では、これまでに本邦のアスレティックトレーニング教育の質的向上に資することを目的とした各種プロジェクト研究、アスレティックトレーニング学に関する用語の共通認識を得ることを目的とした用語集作成を行ってきました。これらの活動に加えて、今年度からはアスレティックトレーニング学の知見をアウトリーチするためのウェビナー活動を開始しました。さらに、会員の皆様と双方向の情報交換を行いながら、アスレティックトレーニング学の知見が、本邦のスポーツ現場の安全・安心環境構築に資するために本会ができることを検討する、「アスレティックトレーニング環境検討ワーキンググループ」を立ち上げ、勉強会を始めとした各種活動を開始しております。これらの活動を通じて、本邦におけるアスレティックトレーニング学の普及・発展に尽力してまいります。

副代表理事

小林寛和(日本福祉大学)



本学会が歩みをはじめて 9 年が経ちました。会員の皆様のご協力をもって、学術集会開催、学会誌定期刊行、法人化、日本学術会議登録等々、学会としての主たる機能と組織が整えられ、我が国における「学問としてのアスレティックトレーニング」の拡がりを主導することができつつあるように思います。

今年にはいつてから、経験したことがない社会情勢となり、国際、国内を問わず競技大会は延期や中止が相次ぎ、あたりまえの日常であったスポーツ活動が、いかに平和と健康に基づいたものであるか、実感せざるを得ませんでした。

この状況下でも、運動休止状態からの段階的な再開に向けた方法と負荷の調整、感染予防のためのスポーツフィールドにおける身体や環境への配慮等々、アスレティックトレーニングの知見と技能を発揮すべき守備範囲には拡がりが見られております。皆様におかれましても、様々な対応が新たに求められているのではないのでしょうか。

本学会は、アスレティックトレーニングの発展をはかっていく中心的存在であるべく、情勢変化に応じ、時代の流れに先んじた活動を進めていく必要があると考えます。会員の皆様とともに学会の今後を創っていきたく、よろしくお願いいたします。

(担当の業務・活動の紹介)

2012 年の学会設立以降、副代表理事として会務に関わって参りました。2018 年までは企画担当理事も兼務し、主に日本学術会議学術協力団体の登録に向けた準備と、他学会との企画・調整のとりまとめを仰せつかって、関係業務を遂行して参りました。

現在、広瀬代表理事の統率と、各担当理事および委員諸氏の尽力により、年々、会務が充実してきております。次に向けて、他学会や関係多職種との連携、また国際的活動の推進など、近いところでの課題に対して、検討を進めていきたいところです。副代表理事として、代表理事や各担当理事と協働し、本学会がさらなる安定基盤をもって活動が推進できるように、尽力していきたく思います。

副代表理事

福田崇(筑波大学)



本学会は、2018年に日本学術会議協力学術研究団体として登録されました。このことは、学会設立当初からご尽力頂きました役員皆様の功績であり、今後は、社会に対して本学会の意義を発信していくことが現役員に課せられている責務の一つと思っています。その点では、現在のコロナ禍において部活動再開のガイドラインを社会に発信し、大きな反響を得ることができたことは意味のある一歩だと思います。

個人的には、スポーツや身体活動を行う方が、より安全安心な環境でこれら活動を楽しめ、ひいては国民の健康水準を引き上げることで豊かな社会に向かうことを期待します。私自身、スポーツが好きで、スポーツを通して成長してきた思いがあります。スポーツが持つ価値をいかに可視化するのは今後の課題であり、我々の存在意義が試されると思います。私は大学で一般体育の授業を行っていますが、90%以上の学生が体育の授業に満足しており、コミュニケーション能力や問題解決能力にも効果を認めています。一方で、スポーツによるけがも一定数みられます。今後は安全安心なスポーツ環境へのニーズがより一層高まり、我々の活動の場が広がると信じています。

(担当の業務・活動の紹介)

理事はそれぞれが主に担当する委員会(将来構想委員会を除く)に属し、委員会を取りまとめていきます。そこから各委員会で挙がってくる審議・報告事項などを理事会で審議していきます。代表理事と副代表理事はこれら委員会に属さず、全体的な舵取りを担います。私の役割としては、代表・副代表理事を中心に学会として目指すべく方向に向けて本会を円滑に進めていくことです。文字で書くと簡単ですが、実際にはまだまだ至らない点が多く、諸先生方の言動やアドバイス一つ一つに支えられている状態です。学会として少しでも良い方向に発展できるように尽力したいと思います。その意味では、学会員の皆様からのご意見は貴重なものになります。是非、学会に足を運んでいただき、情報交換など積極的に行っていきたいと思っています。

倫理・COI 委員会担当理事

笠原政志(国際武道大学)



この度、本会の理事を仰せつかることになりました笠原政志です。私は本会が設立した 2012 年から 6 年間事務局を勤めさせていただきました。その後、今度は理事という立場で本会の活動に関わらせていただくこととなります。スポーツ現場において、安全安心なスポーツ環境の構築とスポーツ選手のよりよいコンディショニングサポートのニーズは年々高くなってきております。これも諸先輩方がこれまで培っていただいた結果だと強く感じております。今後はさらに高まるこれらのニーズに対して、学術団体となった本会が、それをアカデミックな視点を持ってその必要性を明らかにしていくことが求められてきます。この現状に対して本会の会員向けの情報のアップデートをすると共に、スポーツ現場が求めるアスレティックトレーニング学に関する情報発信をさらに実施していきたいと考えております。

最後に、私は理事の中でも学術的およびスポーツ現場活動としてもまだ経験値が足りません。逆に言えば、同じような若手の会員の方と同じ目線で、アスレティックトレーニング学の発展に向けて1つ1つを積み重ねていきたいと考えておりますので、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(担当の業務・活動の紹介)

任期中の私の担当は、倫理・COI 委員会の担当理事、将来構想委員会委員を仰せつかっております。倫理・COI 委員会では、学術団体となった本会における学術大会および投稿論文における利益相反規定の作成、ならびに本会の会員としてアスレティックトレーニングに関する情報提供や研究活動をする立場として求められる行動規範を示す倫理規定の作成を行っております。

将来構想委員会では用語集作成メンバーとして、アスレティックトレーニング学に関わる中で多岐に渡る用語作成の一部を担当しております。また、会員向けのオンラインウェビナーの運営に携わり、アスレティックトレーニング環境検討ワーキンググループのメンバーとしては、会員の方々とアスレティックトレーニング学に関する情報共有をするための「安全・安心なスポーツ環境を実現するためにアスレティックトレーニング学会として何ができるか」の勉強会の運営に携わっております。

広報委員会担当理事

片寄正樹(札幌医科大学)



この度、日本アスレティックトレーニング学会の広報担当理事の 2 期目を拝命いたしました。社会情勢を機敏に感受しながら広報活動を展開すべく、広報委員会のメンバーとの連携協同で本学会の発展に努力してまいり所存です。

COVID-19 感染症は社会的情勢を大きく変化させています。会員の皆様におかれましても日々業務に加え、様々な対応模索が続けられている毎日のことと思います。2020 年 7 月末の WHO の報告では、世界で 170 万件の感染者が報告され、亡くなった方の数は 67 万人のぼっています。我が国においては死者の数は少ない傾向をしめしつつも、経済活動の再開に合わせ、感染数は第二波の装いです。一刻も早い COVID-19 の収束に向かうこと願いながらも、この現状に応じた広報活動を模索しながらアスレティックトレーニング学の考究と当学会が担う専門性の社会的貢献を強く意識した展開を進めて参りたいと思っております。会員の皆様には引き続き、ご指導、ご高配を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(担当の業務・活動の紹介)

担当する広報委員会は、岩本紗由美委員長を筆頭に今期より新たに 3 名の委員が加わり、8 名の委員で運営されています。新役員体制になってから既に 4 回の委員会を開催するなど精力的な連携協同を進め、今期の活動計画を詰めて参りました。

今期の目玉は、学会ホームページのリニューアルです。Covid-19 による社会情勢を背景に加速するデジタルトランスフォーメーションに応じた広報活動の基盤整備を進めて参ります。具体的には、会員向け情報の充実とあわせて、当学会の社会的貢献を意識したパブリック向け情報を充実させていくこととし、YouTube 公式チャンネルの開設による動画コンテンツの取り扱い、SNS との連携加速などを進めていく計画です。また、学術委員会そして編集委員会とも連携し、これまでの学会リソースのホームページへの集約を促すとともに、新たなるオリジナルコンテンツの掲載などを計画的に進めていく予定です。我が国のアスレティックトレーニング学の時代が求めるポータルサイトとして発展させるべく、担当理事としてリードしていきたく思っております。

編集委員会担当理事

木村貞二(信州大学)



本学会の設立時から理事を担当させていただいております。これまで「アスレティックトレーニング学」というものの概念的定義や学術体系の整理,そして、スポーツや臨床の現場における実践と科学的な学術情報との融合の促進を目指して、学会役員や会員の皆様との検討を重ねさせていただいてまいりました。「アスレティックトレーナー」という名称については、社会の中で徐々に認知されてきていると思いますが、「アスレティックトレーニング学」という名称については、まだ聞きなれないという印象をもたれるのが現状であると思います。一方、アスレティックトレーニングの現場においては、積み重ねてきた経験知だけでなく、科学的な学術情報も参照した上で、安全で効果的なトレーニングやケアの方針についての判断を進めていきたいという声も高まってきていると思います。そこで、まだ産声を上げて9年目の学会ではありますが、本学会が、アスレティックトレーニングに関連する多くの学際的な学術情報と、スポーツや臨床の現場における実践との懸け橋となることを願って、会員の皆様との One Team での活動を続けていきたいと願っております。今後ともよろしく願いいたします。

(担当の業務・活動の紹介)

1)用語集作成プロジェクト担当理事

アスレティックトレーニングの現場においては、普段何気なく使っている用語の概念的定義が曖昧であったり、1つの事象を複数の用語で表現したりすることがあるように感じております。そこで用語集作成プロジェクトチームでは、アスレティックトレーニング関係者における共通の用語理解や用語表現の促進に寄与することを目的として、2019年より活動してまいりました。これまでのプロジェクトチームの皆様や執筆協力者の皆様のご尽力により30用語を超える解説文の作成と校正作業を重ねてまいりましたので、近々公開させていただくことができると思います。本用語集をご活用いただくことによって、アスレティックトレーニング分野における共通の用語理解と用語表現が促進されることを願っております。

2)編集委員会担当理事

編集委員会の皆様に、学会誌の企画・編集・発刊、論文投稿の推進、投稿論文の査読、J-stageへの登載などの活動を地道に行っていただいております。学術誌や学会ホームページから発信される学術情報が、スポーツや臨床の現場における安全で効果的な実践のための判断の根拠として活用されることを願っております。

事務局担当理事

倉持梨恵子(中京大学)



日本においてアスレティックトレーナーに求められる役割は時代背景や研究成果によって発展し、変化を遂げております。それぞれの活動に科学的根拠が求められる中で、本学会の担う役割は大きくなっております。2018年に本学会が日本学術会議協力学術研究団体に登録されたことで、学術的・社会的責任は大きなものとなり、より積極的な社会活動が可能となりました。この転換期に理事を拝命し、多くの学びや視点がもたらされ、本学会の社会的意義の大きさを感じております。その一方で、私が籍を置く大学組織において、将来のアスレティックトレーニング学を担う学生達は、日々希望と不安に向き合っており、解決すべき社会的課題は常に存在していることを実感しております。本学会の目指す社会貢献像と、未来を担う若者達の希望を結びつけ、不安を解消すべく、本学会の理事としてお役に立ちたいと思っております。自らの置かれている立場や特性を背景に、スポーツ現場と研究とのギャップを埋めること、地域・性別・年代など異なる視点からの意見が必要な場面において、多様性を許容できる組織を構築することを自ら

の目標とし、学会活動が円滑に進められるよう、尽力して参ります。

(担当の業務・活動の紹介)

2018年7月より事務局担当理事として本学会の運営に携わらせて頂き、これまでに続き二期目の事務局担当理事を拝命しました。事務局が担う業務は、会員ならびに会計管理、文書の作成・発行・管理、理事会・総会の運営などとなっております。学会創設時より2018年度までは全ての事務局業務を国際武道大学にて担って頂いておりましたが、学術研究団体への登録や、今後の会員拡充、事業推進などを見据え、一部業務を外部委託することと致しました。事務局担当理事としましては、理事会と各委員会との連携補助による事業の推進、委託業者との連携による会員の皆様とのやり取りの円滑化を図って参ります。会員の皆様のニーズを反映させ、より良い学会運営に繋げて参りますので、皆様からの忌憚ないご意見やご要望を是非お寄せ下さい。

学術委員会担当理事

越田専太郎(了徳寺大学)



昨期に引き続き、一般社団法人日本アスレティックトレーニング学会学術委員会の担当理事を務めます越田専太郎です。また、今期より委員長職も併せて拝命しております。学術委員会では、研究等の学術活動の推進や、実践者、教育者、研究者への研究・教育支援を通して、アスレティックトレーニング学の質の向上および普及への貢献に努めております。また、関連委員会との連携のもと、国内外の医学系、スポーツ科学系、健康体力科学系の学術団体との交流も積極的に進めております。山本利春担当理事と共に、各委員会および理事会との円滑なコミュニケーションを図るとともに、委員会運営に効果的なリーダーシップを発揮していきたいと思っております。

また、学術委員会では昨期からの9名の先生方に加えて、今期より新たに3名の若手研究者の先生方にもご参加いただいております。ベテラン研究者の方々の経験知と、若手研究者の方々の柔軟な発想の相乗作用により委員会の活動を加速させ、これまで以上に日本アスレティックトレーニング学会の発展に貢献してまいります。会員の皆様に置かれましては、引き続き本会の活動にご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

(担当の業務・活動の紹介)

我々は、まず学術情報の社会への発信を、学会としての優先度が高く、また実現可能性のある目標として重要視しております。すでに、活動自粛後のスポーツ活動開始後の外傷予防やスポーツ現場での熱中症予防について、学会ホームページや Social Network Service を通した情報発信を実施しております。今後も広報委員会との連携のもと、さらに積極的に学術情報を社会に発信する取り組みを加速してまいります。

また、昨今の COVID-19 感染拡大に伴いワークショップ、シンポジウムなど開催方法について再検討が求められております。学術委員会では、このような社会情勢を受けて、早期よりWebを活用したセミナーの開催を実施しております。会員の皆様のご参加をお待ちしております。最後に、研究教育支援の取り組みとして、助成金制度の設立に取り組んでまいります。若手研究者、実践者に対しても配慮した支援のあり方を検討し、アスレティックトレーニング学に関わる様々な方々の成果を、学会全体に共有できる設え、さらに議論の機会創出を目指します。任期中は、これらの活動を通して、アスレティックトレーニング学の発展・普及に努めてまいります。

資格審査委員会担当理事・同委員長

砂川憲彦(帝京平成大学)



今年度より、理事ならびに資格審査委員会の担当理事及び委員長を担当させていただくことになりました。これまでの活動としては、学術委員会委員長、アスレティックトレーナー教育に関するプロジェクト会議委員長、将来構想委員会委員として本学会の活動に携わらせていただきました。そのような経験を活かし、今後はアスレティックトレーニング学会の更なる発展に貢献できるよう尽力したいと考えております。

スポーツが人々や社会にもたらす様々な価値が再認識される中、今後アスレティックトレーニング学が貢献できることは多様であり、学術団体として社会から期待される役割も大きいと感じております。是非会員の皆様と力を合わせ、様々な側面から本

学会を盛り上げていきたいと思っておりますので、何卒宜しくお願いいたします。

(担当の業務・活動の紹介)

資格審査委員会では新入会員や賛助会員・購読会員の方々に対する審査などを主に行っておりますので、迅速かつ適正な審査ができるよう委員の方々との協力し進めてまいりたいと思っております。また、入会時の書類審査が円滑に進むことを目的とし、入会手続きなどについても現在検討が進められております。

学術委員会担当理事

山本利春(国際武道大学)



我が国におけるアスレティックトレーナーの活動範囲と内容の拡大にともない、その存在が社会的に認知されつつあり、アスレティックトレーニングの領域に対する時代の関心と研究への期待はますます増大しています。将来社会における、さらなるスポーツ文化の発展に向けて、スポーツ活動をする人々の事故防止はもとより、健康管理、安全確保への働きかけが一層求められています。このような社会的背景から、日本アスレティックトレーニング学会は、アスレティックトレーニングの領域に関わる健康・スポーツ・スポーツ医科学の普及・発展に寄与することを目的として設立されました。本学会は、学際的な研究成果とスポーツ現場における実践とを融合させ、科学と実践を結びつけるための一つの学問領域として発展し、アスレティックトレーニング学の確実な根拠を示すことが重要な役割ではないかと思えます。それがアスレティックトレーナーの社会的認知を高め、スポーツ医科学領域の発展に寄与することにつながるとものと確信しています。

会員の皆様と共にその課題に向けてより一層の努力をしていく所存ですので、ご協力を賜れば幸いです。よろしくお願いいたします。

(担当の業務・活動の紹介)

現在、越田専太郎理事と共に学術委員会を担当しております。既に終了済みであったり、他の委員会に移行した事案もありますが、本学会の学術委員会では以下のような活動内容に関する活動をしております。

①学術大会における講演、シンポジウム、ワークショップなどの企画協力②「傷害調査システムの標準化」についてのWG立ち上げ③他協力団体との合同プロジェクトを立ち上げに関する提言書の草案作成協力④学術大会における演題抄録の査読⑤他学会との学術大会合同企画運動部活自粛解除後の外傷発生予防への情報提供⑥その他、学術に関する活動や提案

2. 新委員長挨拶

これより委員会委員長の挨拶を掲載いたします。

広報委員長

岩本紗由美(東洋大学)



この度、前期に引き続き日本アスレティックトレーニング学会の広報委員長を拝命することになりました。本来であれば日本から世界にむけて感動を伝える記念の年となるべきはずの2020は、全世界がCOVID-19の影響でスポーツ現場での指導体制のみならず、生活基盤に及ぶ様々な環境を根底から考え直さなければならぬ日々が続いております。このような環境下であるからこそ、アスレティックトレーニング学会の存在意義を会員の皆様と共有するとともに、今、社会が必要としているアスレティックトレーニング学を専門的な見地から社会にむけて情報発信できる広報活動を推し進める意義は大きいと思う次第です。会員の皆様との連携と情報交換を展開しながら広報委員として尽力していく所存でございますので引き続き、ご指導、ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

(担当の業務・活動の紹介)

ミッションステートメント「広報委員会は当法人の目的を達成するために、次に掲げる事項を所掌し、会員サービスの充実と社会への広報活動を推進する。」のもと、具体的に以下4項目:1)広報メディアの総合的な企画・調整、2)ホームページおよびSNSの管理運営、3)ニュースレターの編集・発行、4)その他の業務を遂行してまいります。今期から新たに3名の新委員にご協力いただき、特に、ホームページ、YouTube、ソーシャルメディア、ニュースレターと昨年度の新規事業として始まった会員紹介を担当制とし、密なコミュニケーションを取りながら現在進行中であります。

近年の急速なIT環境の変化に加え、昨年度末からのCOVID-19による影響が我々を取り巻く環境に大きな変化を与えており、学会の広報活動も変化を求められております。このことから全広報委員の総力をあげて本年度内に学会ホームページのリニューアルを予定しております。このホームページリニューアルを機に、本来あるべき、学会員の皆様への有益な情報発信の強化とアスレティックトレーニング学専門領域から広く社会へのメッセージとして情報発信の展開を加速させることを目指しております。

編集委員長

永野康治(日本女子体育大学)



学会において学会誌はその分野における最新の知見を公表し、蓄積していく場となります。そのため、本邦におけるアスレティックトレーニングにおける科学的根拠を示すプラットフォームとして、会員の皆様には本学会誌をぜひご活用いただければと思います。本学会が日本学術会議協力学術研究団体となったことから、本学会誌も学術的な価値が認められてきております。また、掲載された論文はすべてJ-stage上にて公開され、多くの方に見ていただくことが可能です。学術集会にて研究発表をされる先生方も多いかと存じますが、ぜひともその成

果を当該分野における知見として残していくために、学会誌にも投稿いただければ幸いです。

(担当の業務・活動の紹介)

日本アスレティックトレーニング学会誌における、発刊・編集作業、J-stage への登載、査読の取りまとめ、特集の企画・掲載、各種規定の見直し・改訂、論文投稿の推進、優秀論文の表彰などを行っております。学会員の方の研究成果を迅速に掲載できるよう、また有用な情報を提供できるように取り組んでいきます。

倫理・COI 委員長

渡邊裕之(北里大学)



この度、倫理・COI 委員会委員長を拝命いたしました渡邊と申します。倫理・COI 委員会は他の委員会に比較して新しく作られた組織で 2019 年度に発足いたしました。アスレティックトレーニング学会はスポーツに関係する様々な事象を科学的に分析、考察し、新たな根拠として知見を集積する責務があります。そして新しい事実を社会に還元していかなくてはなりません。したがって、学会発表や論文を執筆する会員の倫理観や利益相反状態については中立性が担保されなければなりません。倫理・COI 委員会は、会員の研究活動の成果が社会から認められるための一助となるよう支援致します。

アスレティックトレーニング学の根拠の集積は、我々の活動をより有益とするだけでなく、アスレティックトレーナーが社会に認知されるための礎となります。会員の先生方には、研究活動が自己のためだけでなく、我々を利用するアスリート全体、拡大すれば社会全体への貢献となるよう倫理・COI 委員会をご利用頂ければ幸いです。

(担当の業務・活動の紹介)

利益相反(conflict of interest: COI)とは研究者が研究を支援する企業などに配慮し、研究成果に対するバイアスの疑義が生じることです。利益相反はそれ自体が問題となるのではなく、開示と説明が必要となります。

倫理・COI 委員会では昨年度に利益相反(COI)規定を策定しました。本規定は今年度運用しつつ、見直しを繰り返しながらさらに洗練させていきたいと考えております。今後は学会発表時や論文投稿時の利益相反状態の開示、説明のための書式を作成します。また、倫理規定の策定を同時に検討し、会員の倫理観の醸成を進めたいと考えております。

何とぞ、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

3. 第9回日本アスレティックトレーニング学会学術大会のお知らせ

2020年12月5(土)～31日(木)にオンラインにて開催いたします。

大会テーマは「アスレティックトレーニングの専門性と多様性」です。

プログラムは第9回日本アスレティックトレーニング学会学術大会ホームページにてご確認ください。

<https://confit.atlas.jp/guide/event/jsatconference2020/top>

参加登録期間は2020年9月1日(火)～11月30日(月)23:59となります。

12月中であれば繰り返し視聴が可能となっております。

多くの皆様の大会参加をお待ちしております。

第9回日本アスレティックトレーニング学会学術大会

大会長	広瀬 統一	早稲田大学
実行委員長	細川 由梨	早稲田大学
事務局長	秋山 圭	早稲田大学

4. アスレティックトレーニング学会員の活動報告

Profile No.2



氏名：鈴木 健大 / JSPO-AT (2007 年取得)

所属：株式会社 BCF

主な活動拠点：

医療法人 AR-Ex 長野整形外科クリニック・長野パーソナルコンディショニングセンター（長野県） / 高校・大学新体操部（長野県・東京都） / 高校・全日本スキージャンプチーム（長野県）

— 現在のお仕事やアスレティックトレーナーとしての活動内容・得意とされていることについて教えてください。

平日は整形外科に併設された施設にて、基本的に整形外科的疾患を持つ幅広い年代の様々な方を対象としたパーソナルのコンディショニングやトレーニング指導、休日にはチームへ出向いて、アスリートへコンディショニングやトレーニングの指導を行っています。ケガをしないための動作の改善やスキルの再学習を得意としています。

— 現場活動において「研究」を活用した事例 / 「科学的アプローチ」の経験があれば教えてください。

新体操競技者の動作解析をコーチ・研究者と共に行い、指導に活用しています。具体的には、新体操の基礎技術かつ頻出動作であるフェットターンを高校生競技者に実施させ、3次元動作解析を行った結果を、異なる競技レベル間で比較しました。動作時の関節角度そのものには違いがみられなかったものの、上級群ほどターンをくり返した際の関節角度の変動係数が小さい（＝動きが安定している）という結果が得られました。これらの測定結果から、指導の際に特に着目すべき点や行うトレーニングの方向性、評価テストについても考えるこ

とができました。以上の内容は、本年度論文にすることもできました^{※1}。スポーツの現場では感覚で語られる情報も、医療現場ではエビデンスを求められることが多いので、そのような面でも活用できていると思います。

※1 鈴木健大ら：女子高校生新体操選手におけるフェットターン動作の運動学的考察。日本スポーツリハビリテーション学会誌。vol. 9, pp. 21-29, 2020.

— トレーナー・コーチ・研究者の3者で研究に取り組むことは理想的である一方、なかなか実現が難しいと感じています。研究はどのようにして発想・実現されたのでしょうか？

新体操競技をサポートしはじめてから、新体操競技者には一般的なトレーニングが当てはまらない場面に遭遇することが多々ありました。股関節の関節可動域等をイメージしていただければわかりやすいかと思います。競技中の動作からのアプローチができないかと考えていた際に、勤務先の医師から、バイオメカニクスの研究者を紹介していただき、サポート先のコーチと共に取り組む事となりました。コーチとの共通認識を持てていることは、トレーナーとして指導やサポートを行う際にも役立っています。

—ご自身の活動現場で解決を模索していること、もしくは、アスレティックトレーニング領域のなかで新たにチャレンジしている問題や課題があれば教えてください。

すでにサッカー等の種目では構築されているものもあるかと思いますが、まずは、新体操競技における年代毎のトレーニング指導方法について検討を行いたいと考えています。今回の研究では高校生を対象としましたが、審美系スポーツでは年代や成長をふまえた指導に関するエビデンスがあまりみられないこともあり、幅広い年代を対象に成長段階もふまえた検討をしてみたいです。

また、スキージャンプや新体操のサポートについて感じるのですが、トップレベルには感覚の鋭い競技者が多くみられるように感じます。エビデンスの構築としては難しいかもしれませんが、いわゆる外れ値に在るような競技者への感覚を大切にしたい指導やアプローチの方法については、現在模索しているところです。

—アスレティックトレーナーとしてやりたいこと／今後やってみたいことを教えてください。

私が主に活動している長野県では、情報が早く伝わる都会の方とは違い、未だにトレーナーといえば「何か起こった時にケアをしてくれる人」といった認識をもたれている印象があります。今後、長野県の人たちへ、コンディショニングの普及を通して、外傷・障害や事故を未然に防ぐことの大切さを伝え、ひいてはアスレティックトレーナーへの理解を深めていけるような活動ができればと考えています。



写真：新体操選手へのトレーニング指導の様子

編集後記

日本アスレティックトレーニング学会 News Letter 第7号をお読みいただきありがとうございました。
今回は、2020 年度より新執行部となり、理事に就任された先生方ならびに各委員会委員長に就任された先生方の挨拶を掲載させていただきました。そのなかでは各理事のご担当領域の詳細や委員会としてどのような業務を担われているかもご説明いただいておりますので、学会として何が行われているかを知るきっかけにさせていただけたのではないのでしょうか。

また、12 月におこなわれる学術大会の情報を掲載させていただきましたので、多くの方々の参加を期待するところです。また、広報委員会としての定期企画である会員紹介ではお一人の学会員の方に対して広報委員会として現場での活動をレポートさせていただき、アスレティックトレーニング領域でどのような活動をされている方々がおられるかを紹介していきます。会員の皆様に、活動形態や現場での情報共有として活用していただけますと幸いです

今後、News letter は PDF 形式で会員の皆様に配信後、バックナンバーとして当会ホームページでも掲載予定です。

学会員皆様に、より身近で情報収集しやすい媒体を目指して今後とも広報委員会一同精進していく所存です。今後とも、当会活動へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

(広報委員会 News Letter 担当: 田口暢秀)

日本アスレティックトレーニング学会 News letter 第 7 号 2020 年 10 月 15 日発行

編集: 日本アスレティックトレーニング学会広報委員会

News letter 担当 田口 暢秀、佐々木 さはら

会員紹介担当 廣野 準一、安田 良子、笹木 正悟

片寄正樹(担当理事)、岩本紗由美(委員長)

発行: 一般社団法人日本アスレティックトレーニング学会

事務局住所 〒116-0011 東京都荒川区西尾久7丁目 12-16 創文印刷工業株式会社内

電話 03-3893-0111 FAX 03-3893-6611

E-mail:jimujsat@soubun.com URL:<http://www.js-at.jp>
